



約5500人が花火やアトラクションを満喫した「夏まつり旭川荘」(6面に関連記事)



CONTENTS

- P2** やすらぎ荘 地域とともに10年
- P3** みずほ証券で移動展
- P4-5** 入院生活に安らぎを ポストNICU病棟
- P7** レシピ ゴーヤを使った2品
- P8** 台風に備え水防訓練

# 旭川荘 だより

vol.  
**205**

2015.08.01 発行

発行/社会福祉法人 旭川荘  
〒703-8555 岡山市北区祇園866  
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640  
<http://www.asahigawasou.or.jp>



旭川荘を視察、幹部職員と懇談した  
ドイツ・カトリック大学訪問団一行(3面に関連記事)



## やすらぎ荘開設10周年記念式典 関係者50人が祝う

グループホームやすらぎ荘は開設10周年を迎え、7月11日にやすらぎの里センターハウスで記念式典を開催しました。

式典には近藤隆則高梁市長をはじめ地元関係者、利



あいさつする末光理事長

用者、家族、旭川荘の役員ら約50人が出席。末光茂理事長が地域とともに歩んできた10周年を振り返り「ご利用者の方々が誇りを持って人生の最後を暮らせるように、地域の皆様方の見守りやご支援をお願いします」とあいさつ。川上一夫施設長は行政や地元の支援に触れ「利用者に喜ばれる地域の施設として今後も役割を果たしていきたい」とますます努力することを誓いました。

また長年にわたり支援に携わった職員2人に、菅原英次備中支部長より感謝状と記念品が贈呈されました。

式の最後には地域の祝い事に欠かせない「備中神楽・大国の舞」を職員有志が披露。式典に花を添えました。



菅原備中支部長(左)より感謝状を受け取る職員

## 江草名誉理事長追悼講演会 約250人が功績たたえる

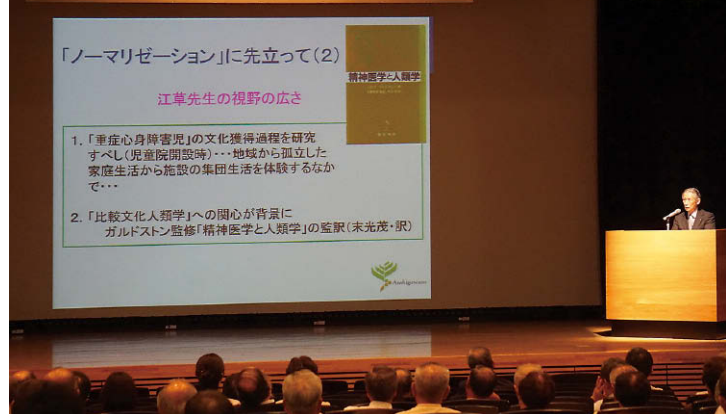
今年3月に亡くなった江草安彦名誉理事長を追悼する講演会「ノーマライゼーションと医療福祉—江草安彦の足跡」(山陽新聞社会事業団、旭川荘など主催)が7月22日、山陽新聞社さん太ホール(岡山市北区柳町)で開催され、約250人が参加、江草先生の功績をたたえました。

冒頭、テレビせとうちが3月に放送した番組「敬天愛人 旭川荘60年の歩みと未来」を上映。バンクミケルセン財団の千葉忠夫理事長、旭川荘の末光茂理事長、山陽新聞社会事業団の阪本文雄専務理事が講演しました。

千葉理事長は、1980年に江草先生がデンマークを訪れ、バンクミケルセンとノーマライゼーションの理念を語り合ったことに触れ「最初の出会から共通の人類愛、人間愛を実感していた仲。バンクは85年に岡山に講演に招かれたことをとても喜んでいました。どちらも政治家ではないが、社会をよりよい方向へ変える力を持っていた」と振り返りました。

続いて末光理事長は、常に弱い立場の人に寄り添う江草先生について「障害者とその家族の幸せのためには市民の理解、支援が必要として、地域に開かれた施設を目指した。巡回療育訪問や緊急一時保護入院、通園モデル事業に全国に先駆けて取り組むなど、重症児の支援体制を大きく先導された」と述懐。旭川荘が県内に分散した小規模の入所施設や地域生活ホームの整備を通じて利用者本

### 江草安彦先生追悼講演会



江草名誉理事長の功績をたたえた追悼講演会

位、地域密着の福祉体系の整備にも力を注いできたことを紹介しました。

阪本専務理事は、江草先生が他者への奉仕に生きる宣教師の姿に感銘を受け、23歳の時にキリスト教に入信したこと、児童相談所や乳児院での仕事を通して児童福祉に傾倒していったことなど、旭川荘創設に参加するまでの歩みについて解説。さらに「旭川荘での実践の中から医療と福祉が一体となった専門教育の必要性を感じ、生涯をかけて医療福祉学を体系化、多くの人材を育てた」と語りました。



## ドイツ・カトリック大学訪問団 療育・医療センターなど視察

ドイツのNRWカトリック大学の訪問団が7月7日、旭川荘を訪れ、療育・医療センターなどを視察しました。

一行はベルンバルト・ロブレヒト理事長をはじめ教員、ソーシャルワークや介護などを学ぶ学生ら14人。国際学術交流協定を結ぶ県立広島大学への途上、同大の三原博光教授の案内で来荘しました。

昼食会を兼ねた懇談会では、末光茂理事長が社会福祉法人の概念や旭川荘の事業内容について説明。教員

や学生からは「旭川荘全体でソーシャルワーカーは何人いるのか」

「看護師や介護福祉士の資格を取るのに何年学ぶのか」「財源は寄付によるものか」など、専門職養成や法人運営についての質問が相次ぎました。



療育・医療センターの病棟を視察する一行

続いて同センターの病棟を訪れ、利用者の暮らしや、支援学校教員の訪問授業を受ける様子などを見学。旭川乳児院にも立ち寄り、保育士が子どもと寄り添って遊ぶ場面など熱心に見ていました。

同大1年生のケルスチン・ヒルガーさん(22歳)は、施設の明るい雰囲気や利用者や職員の親密さに驚いた様子。同級生のクリスティーナ・ルーダットさん(31歳)は「専門的な施設でありながら、家庭的な温かさを感じた」と話していました。



訪問団と旭川荘関係者による懇談会

## アートギャラリー移動展 みずほ証券で開催

みずほ証券岡山支店(岡山市北区駅前町)で7月1日、旭川荘アートギャラリー移動展が始まりました。昨年12月から今年3月まで開催した移動展が好評だったことから、同店の協力のもと2回目を実現しました。

同店は複合商業施設「ドレミの街」の西隣に位置し、JR岡山駅からも徒歩数分の場所。ショーウィンドーを利用した展示スペースは、「桃太郎大通り」からも目につき、通行人の目を楽しませています。

7月は、青や緑、オレンジ色で魚のうろこを



みずほ証券の展示スペース(7月)



アイドルを表現した陶芸作品



県庁アートギャラリーに展示された絵画作品(7月)

彩った「額の中の金魚」など絵画5点と、作者自身の好きなアイドルグループを表現した陶芸作品5点を展示。8月からは、カラフルな色使いが目を引く「ミックスカラー」など絵画5点と、小さな王様をモチーフにした陶芸作品など計13点を展示しています(8月31日まで)。

絵画はいずれも、昨年の旭川荘アートギャラリー第5回特別展に応募された作品で、6月と7月の2カ月間、岡山県庁で開催中の「障害のある人の県庁アートギャラリー」でも展示されました。

# 長い入院生活に笑顔と安らぎを 療育・医療センターポストNICU病棟

一般病院のNICU(新生児集中治療室)を退院した子どもたちなどを受け入れる旭川荘療育・医療センターのポストNICU病棟(通称ふたば病棟)。医療的ケアが欠かせないため、在宅での生活に移行することが難しく長期にわたって入院している利用者もいます。病棟は、医療が行われると同時に、利用者の人生を支え成長や発達を支援する「生活の場」でもあります。それをより良いものにしようと奮闘する職員の取り組みを紹介します。(広報委員 村上由実子)

ふたば病棟には2歳から62歳までの重症心身障害児・者10人が生活しています。NICUから転院するなど、医療ニーズが高い人たちが、年齢も違えば、障害の重症度、病状も違います。

「医療的ケア中心の生活の中で、ささやかな楽しみや喜

びを感じてもらいたい」。そんな思いで支援スタッフらは個々の状態に合った活動やイベントを計画。利用者の負担にならないよう、医師や看護師に確認しながら試行錯誤を重ねています。

## 簡易装置を手作り スヌーズレン クラブ

重い障害のある人も楽しめるように、光、音、香り、振動などの感覚刺激を組み合わ

せたリラックスプログラム

「スヌーズレン」。同センターでは3号棟に専用の「スヌーズレン室」を設け、利用者の日々の活動に取り入れています。ふたば病棟の人たちは人工呼吸器をつけているため、ベッドや病棟から長時間離れられず、スヌーズレン室を使用することができません。そこで職員が簡易なスヌーズレン装置を2つ手作りました。

1つは室内用の TENT を活用。表面を黒いビニールで覆って遮光性を高め、専用プロジェクターでイラストを映写、プラネタリウムのような空間を作りました。バギーに乗車したまま TENT に入ることができます。もう1つはベッドに寝たまま身体に被せるタイプのもので、大きなダンボールの内側に黒い布を貼り、蛍光折り紙で作った星や

月などを飾り、ブラックライトで照らして宇宙を表現しました。活動の際には、アロマオイルをたいて音楽を流し、光と音と香りを体感することができます。



癒しの空間で過ごす職員と山田君

スヌーズレンクラブのある木曜日。最近、短時間ながら呼吸器を外せるようになった山田陽平君(4歳)は TENT を利用して、ゆったりとした時間を過ごしています。職員が寄り添い一緒に時間を過ごすことで安心感が得られるのか、気がつくとなかなか眠っていることもあります。

一方、藤原海人君(2歳)は呼吸器があるため、ベッドから離れることができません。ダンボールの装置で楽しめます。中をのぞくとリラックスしているのか、穏やかな表情をみせてくれました。



呼吸器をつけている藤原君



ダンボール型装置。様子を見ながら職員がブラックライトで天井を照らす



ダンボール型装置の内部

## 花や野菜に水やり 創作・園芸 クラブ

ふたば病棟のある4号棟1階に、プランターを並べた「ふたばガーデン」があります。八塔栄子さん（62歳）と河村マキさん（30歳）がゴーヤとミニトマト、ラベンダーを育てていて、毎週金曜日に水やりをしています。取材に訪れた日は河村さんが担当。長時間屋外に出ることは難しいため、看護師は応急処置ができる救急バッグを持って付き添います。ほんの10分程度の外出でしたが、水の入ったジョウロを手にした時、河村さんの顔が少しほころんだように感じました。

体調が思わしくなく、外出できなかった八塔さんはガーデン日誌を作成。少しずつ大きくなる様子を切り絵



ふたばガーデンに水やりをする河村さん

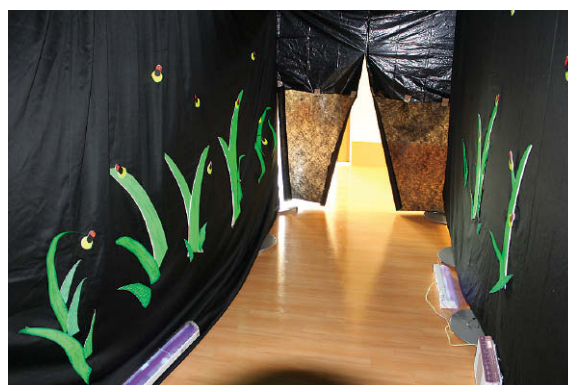
で表現しました。収穫したラベンダーはポプリに。ゴーヤやミニトマトは給食のメニューに取り入れてもらえるか相談する予定です。



## トンネル内下 疑似体験 ホタル観賞会

ホテルが最盛期を迎えた6月中旬、外に出て本物を見ることのできない利用者に疑似体験をしてみようとして、病棟内でホテル観賞会を開催しました。イベント用に職員が準備したのは、パーテーションパネルと黒いビニールで作った“ホテルトンネル”。内側に蛍光塗料で仕上げたホテルや草木を貼りつけ、ブラックライトで照らします。

観賞会には利用者全員が参加。人工呼吸器を片時も外せない人にもトンネルに入ってもらうため、看護師が呼吸器を医療用の手動ポンプに切り替えて付き添います。暗いトンネルに入ると、聞こえてくるのは川のせせらぎの効果音。職員が棒の先につけたホテルをゆらゆらと揺らして、夜の暗闇にホテルが飛び回る様子を再現しました。たった2～3分ではありましたが、皆いつもと違う体験を楽しんでいるように見えました。



ホテルが飛び交うトンネル内部



頭上にホテルがふわり…。職員も楽しそう

このほかにも、音楽を聞いて過ごす「音楽クラブ」や、短時間でもベッドを離れてみる「脱出クラブ」などがあります。体育祭やクリスマス会など季節に合わせた行事も開催しています。「さまざまな活動の積み重ねが、表現、表出の難しい利用者の心と身体に届いて、少しでも良い

方向へ導けたらという思いで支援している」と発案の中心メンバーである那須京子主幹。「利用者の負担を考えると取り組みにくいことも多いが、工夫次第でできることもある。医療スタッフと相談しながら、普通の生活が体験できるようサポートしていきたい」と話しています。



# 夏本番 祇園、備中、愛媛でイベント開催

旭川荘の祇園本部、備中、愛媛の各支部で7月に夏イベントが開催され、利用者や家族が地域の方々と交流、アトラクションや屋台を楽しみました。なお、今年は台風11号の影響で、ひらた地区の盆踊り大会は残念ながら中止となりました。



## 創立60周年を600発の花火でお祝い

祇園地区恒例の夏イベント「第35回夏まつり旭川荘」を7月23日に開催しました。施設の利用者やボランティア、地域の方々と約5500人が集い、夜店やアトラクション、花火で夏の夜を堪能しました。



やぐらを囲んでの盆踊り

まつりはわかくさ学園のうらじゃ踊りで開幕、県警音楽隊のドリル演奏をはじめ、地元グループが和太鼓や獅子舞、傘おどりなどのアトラクションを披露。やぐら周囲には地元踊り連のリードで盆踊りの輪が広がりました。

まつりはわかくさ学園のうらじゃ踊りで開幕、県警音楽隊のドリル演奏

会場周辺には職員や家族会、地域の方々が出店する約30の夜店が並び、たこ焼きや焼き鳥、かき氷などを提供。ヨーヨー釣りや金魚すくい、綿菓子



行列ができた夜店コーナー

の店には子どもたちの行列ができていました。車いすの人たちもボランティアらの介助で場内をゆっくり回り、まつりの雰囲気を楽しみました。

フィナーレの打ち上げ花火は、創立60周年を記念して600発に増発し盛大にお祝い。大きな音とともに色鮮やかな大輪の花が夜空に開くと、歓声が沸き起こりました。

## 岡山操山中より手作りうちわの寄贈

「夏まつり旭川荘」を前に7月22日、県立岡山操山中学校（岡山市中区浜）の生徒のみさんから手作りのうちわを359枚いただきました。昨年に続いて2回目となります。



手作りのうちわを渡す生徒たち(左)

うちわは、同校の課外活動「SOZAN 国際塾」のボランティアメンバーが、全校生徒に協力を呼びかけ、1人1枚ずつ製作。アサガオや金魚など、夏をテーマにイラストを描いてもらいました。

この日は、引率の教諭2人とボランティアメンバーを代表して3年生4人が来荘。夏まつり旭川荘実行委員会メン

バーの田村稔旭川敬老園副園長らにうちわを手渡しました。田村副園長は「気持ちのこもったうちわをいただき、利用者の方々も幸せな気持ちになります」とお礼を述べました。

## 「ありがとう」テーマに夏祭り

南愛媛療育センターの夏祭りは「ありがとう」をテーマに7月11日に開催。

急な雨で会場を室内に移しての開催となりましたが、利用者と地域の人たちが笑顔で夏の夜を満喫しました。



会場を沸かせた“ちんどんショー”

今年は地域おこしに取り組む地元の「愛治ちんどんクラブ」によるちんどんショーが会場で繰り広げられました。笛や太鼓の調べに乗って旅芸人風のいでたちをしたメンバーが現れると、辺りが“昭和の香り”に包まれました。生まれて初めて見る人や、ずっと昔に見たことのある地元の人たち、利用者、家族の表情がほろび「ありがとう」の声が聞かれました。

恒例の鬼北町商工会の「たこ焼き」や職員による「飲み物」「かき氷」など趣向を凝らしたお楽しみ屋台などもあり、夏の夜を地域の方々で楽しみました。

## かわかみ療護園で納涼祭 実習生らと「あんみつ」作り楽しむ

かわかみ療護園の納涼祭が7月16日に行われました。この日は台風接近のため風が強く、イベント内容を変更し、屋内ホールでの開催となりました。

地元のボランティアグループ四つ葉の会の2人と新見公立短期大学の実習生8人の協力を得て、夏の涼香「あんみつ」作り挑戦しました。包丁で果物を切る人、盛り付けをする人など、それぞれが出来ることに取り組み、あっという間にあんみつが完成。全員で美味しくいただきました。

また、カラオケの好きな利用者が自慢の歌声を披露。実習生による歌やダンスもあり、和やかな一時を過ごしました。



あんみつ作り挑戦する利用者ら

## ゴーヤを使った2品 チャンプルーとから揚げ

旬の野菜で、暑い夏を乗り切ろう

### ○材料

#### 〈チャンプルー〉(4人分)

ゴーヤ	1本	サラダ油	小さじ1
木綿豆腐	1/2丁	ごま油	小さじ2
豚ばら肉	80g	酒	大さじ1
にんじん	約3cm	塩	ひとつまみ
生しいたけ	2枚	しょうゆ	大さじ1
卵	2個		

#### 〈から揚げ〉(4人分)

ゴーヤ	1本
片栗粉	大さじ2
カレー粉	少々
揚げ油	適宜
塩	お好みで

### 〈チャンプルーの作り方〉

- ① ゴーヤは縦半分に切り、スプーンなどで種を取り除き、5mm程度に切る。
- ② にんじんと生しいたけは千切り、豆腐は一口大に切る。豚ばら肉は食べやすい大きさに切り、塩こしょう(分量外)する。
- ③ 温めたフライパンにサラダ油を入れ、豆腐に焼き色がつくまで炒め、取り出しておく。
- ④ フライパンにごま油を入れ、ゴーヤ、にんじん、生しいたけを炒め、取り出しておく。
- ⑤ 豚ばら肉を1枚ずつ広げて焼き、取り出しておいた具材も一緒に炒めて、☆で味をつける。溶き卵を流し入れ、火を止めてからしょうゆをまわしかけ、ひと混ぜする。

栄養量:1人分  
〈チャンプルー〉  
エネルギー:139kcal  
たんぱく質:10g  
ビタミンC:21mg

栄養量:1人分  
〈から揚げ〉  
エネルギー:56kcal  
たんぱく質:0.2g  
ビタミンC:19mg



### 〈から揚げの作り方〉

- ① ゴーヤはチャンプルーと同じように処理する。
- ② ビニール袋にゴーヤ、片栗粉、カレー粉を入れ、よく振る。
- ③ 油を熱し、150~160℃くらいの低温でゆっくり揚げる。お好みで塩を振る。

旭川荘では夏の節電対策の一つとして、ゴーヤでグリーンカーテンを作り、強い日差しを遮っています。今回は、このゴーヤを使った料理2品を紹介します。

ゴーヤはニガウリともいわれるとおり、果肉の「苦味」が特徴です。この独特の苦味は「モモルデシン」という成分で、食欲を増進させる効果があります。またビタミンCも豊富で、きゅうりやトマトの約5倍も含まれています。炒めても壊れにくい性質をもっているため、油との相性も抜群です。もりもり食べて、夏バテを防止しましょう。(フーズセンター 石原美江)



ゴーヤの苦味が気になる場合は、炒める前に軽く塩を振って、さっと茹でておくといいでしょ。から揚げやフリッターなど、油で揚げると苦味がマイルドになり、美味しくいただけます。

## オペラ「アマールと——」の舞台裏を紹介 シンフォニーホール・玉垣さん講演

エコール・トモニー講演会を7月15日、旭川敬老園地域交流ホールで開催。3月に岡山シンフォニーホールで上演した旭川荘60周年記念オペラ「アマールと夜の訪問者たち」をプロデュースした同ホールの玉垣夫規子さん(岡山フィルハーモニック管弦楽団ゼネラルマネージャー)が「開幕のベルが鳴るまで」と題して講演しました。

玉垣さんは約30年前、敬老園でボランティアを経験したことに触れ「母が突然亡くなりパニックになったが、半年間ここでお手伝いをするうちに心が穏やかになった。他県出身で縁もゆかりもなかったが、(旭川荘で)温かく受け入れてもらった」と語りました。

また、「アマールと——」の公演にあたり、限られた予算の中で照明、装置、衣装などそれぞれのプロが最善の準備を



約60人が参加した講演会

して臨んだこと、DVD製作のためにビデオカメラ1台分の予算で9台のカメラが投入されたことを紹介。「どこに出しても恥ずかしくないオペラ公演だった」と振り返りました。

さらに旭川荘合唱団の一員として参加した一人の少年との出会いを挙げ、「『僕らの歌を聞いてもらえるのが嬉しい』とニコニコしながら練習に取り組み、本番でも真っ直ぐな気持ちで羊飼役を好演した。演出家も指揮者も子どもたちが1回の助言で“できる”ことに驚き、『本当に心に残る公演ができた』と感激していた。それが私にとって何よりの幸せだった」と言及。「オペラは皆さんにとって遠い世界のことだったと思うが、旭川荘はそれを素直に受け入れ、公演に躊躇なく向かっていける組織。受け入れてもらえる嬉しさを身をもって体験させていただいた」と締めくくりました。

会場ではオペラに出演した職員を含め約60人が聴講。DVDの上映もあり、感動の余韻に浸っていました。

公演の舞台裏について語る  
玉垣さん



## 祇園地区で水防訓練実施

台風シーズンを前に7月3日、祇園地区で総合水防訓練が行われ、緊急時の避難方法や連絡体制について確認しました。

訓練は「台風が岡山県を直撃し暴風が発生。大雨で旭川が増水し床上5メートルまで冠水」という想定で実施。各施設の職員は、サービスセンター2階に設置した災害対策本部から無線等で指示を受け、利用者と一緒に指定の待機場所へ避難しました。



災害対策本部での訓練の様子

旭川児童発達センターでは、浸水を回避するために職員が複数のエレベーターを使用し利用者を2階へ誘導。待機場所で利用者に寄り



ヘルメットを着用し避難する旭川乳児院の職員

添うなど、リラックスできる環境づくりにも心がけていました。また、旭川乳児院の職員は、暴風による飛来落下物から頭部を守るためにヘルメットを着用。施設から食料品や衛生品を携えて迅速に移動しました。

## フットベースボール大会 わかくさ学園15人が出場



岡山県障害者スポーツ大会のフットベースボール競技が7月4日、岡山ドーム（岡山市北区北長瀬）で開催され、わかくさ学園のチーム「ガッツわかくさ」の15人が出場しました。



選手宣誓する村上君

「うらじゃ」や「マラソン」など積極的に活動する同学園は、この大会にも5回目の参加。結果は3チーム中3位でしたが、選手は走って、蹴って、投げてと全力でプレーしていました。

主将の村上大輔君（18歳）は「試合に負け悔しいが、ベストを尽くせた。元気の良さでは負けていない」とチームメイトの奮闘を称賛。監督を務める同学園の井上幸次主任は「子どもたちは競技を通じ仲間の良い所を見て褒め合うようになった。試合で活躍できたことが自信となり今後の成長につながれば」と期待を寄せています。



疾走する「ガッツわかくさ」の選手

## 旭川荘ごよみ

SCHEDULE CALENDAR



8月

- 1日 家族会・夏まつり ……ひだまり苑  
親子ふれあい夏まつり ……津島児童学院
- 2日 桃太郎まつり(うらじゃ) ……わかくさ学園  
川上り駅伝(愛媛県鬼北町) ……北宇和病院
- 3,11,21,27日 織工房ワークショップ ……愛育寮
- 5~8日 平川家庭学校 ……旭川学園
- 8日 オープンキャンパス ……旭川荘厚生専門学院
- 12日 納涼会 ……吉備ワークホーム
- 19日 福祉体験バス ……旭川荘
- 21~22日 ふれあいキャンプ ……旭川学園
- 25日 ピアガーデン風バイキング ……かわかみ療護園
- 26~27日 第48回障害医療福祉セミナー(メルパルク) ……旭川荘
- 29日 星空サマーコンサート ……ひらた旭川荘

☆ 夏季休暇 ~各施設

9月

- 1日~11月25日 常設展(秋) ……旭川荘アートギャラリー
- 3日 天理教秋の清掃奉仕活動 ……旭川敬老園
- 5日 旭川学園・悠久の庭竣工式 ……旭川学園
- 12日 オープンキャンパス ……旭川荘厚生専門学院
- 19日 敬老の日記念行事 ……旭川敬老園  
第13回ふれあい祭 ……いんべ通園センター
- 23日~10月4日 ちよっと見て旭川荘(黒井山グリーンパーク) ……旭川荘関係施設

## 編集後記

ポストNICU病棟での取材中、利用者はもちろん、職員も楽しんでいる様子がよく伝わりました。いつ状態が変化するかわからないという緊迫した場面もある中で、働く人たちの笑顔が利用者にも伝播していると感じ、取材をしている私も楽しい気持ちになることができました。

(広報委員 村上由実子)